東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

美術科 2021年度の取り組み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-04-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 嶽,里永子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173828

国際中等教育研究　第15号 p.157 ～ 162
東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要

美術科　2021 年度の取り組み

The Visual Arts Division Initiatives for SY2021

美術科　嶽 里永子

要旨

2021 年度の美術科の実践から、主な実践を取り上げて報告する。

１章　はじめに

本校美術科では、以下の点を中心に取り組んできた。

① 国際バカロレアの MYP、DP に対応した指導計画と実践
② スケッチブックを評価課題として活用した MYP 評価規準に基づく授業実践
③ 教科横断的単元プラン（IDU）の作成と実践
④ MYP の Global context に関連し、国際教養と連携した学習活動
⑤ MYP からのつながりを意識した DP Visual arts の指導計画と実践
⑥ イマージョン美術の実践
⑦ 新型コロナウイルス感染症予防に対応した活動
⑧ 鑑賞活動や交流を深める、生徒作品等の展示や記録に関する取り組み

本稿では、上記の取り組みの中から、特に⑧について、生徒作品等の展示や記録に関する取り組みを報告する。

２章　生徒作品等の展示や記録に関する取り組みについて

１節　今年度の展示活動概要

生徒作品等の展示について、平成 29 年告示の中学校学習指導要領解説美術編には「生徒が鑑賞に親しむことができるよう，校内の適切な場所に鑑賞作品などを展示するとともに，学校や地域の実態に応じて，校外においても生徒作品などの展示の機会を設けるなどすること」（文科省，2017，p138）と記されている。国際バカロレアの MYP や DP の美術においても、生徒作品等の展示や記録は重要な活動の一つとして扱われている。

本校美術科の校内展示については、過去にはスクールフェスティバル期間中に授業作品を公開展示したり、DP 美術展示を生徒だけでなく保護者や一般の方も来校できる形で公開発表したりしていた。また、校外でも東京近郊の IB 校を含むインターナショナルスクールとの交流展覧会に参加する等の活動を行なってきた。しかし、昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響などで、展示を対面形式で一般公開する機会は減っている。一方、オンライン展覧会のような新たな形式による発表の機会が模索されるようになった。今年度の展示の実施状況（計画中のものも含む）は以下である。

時期	場所・概要	主な鑑賞者
6 月～ 1 月現在	校内（美術室前のギャラリースペース）・ 授業作品を学年単位で入れ替えて展示	前期課程の生徒、後期課程で美術を履修している生徒、来校者
10 月	校内（E 棟 2 階大教室）・6 年 DP 生の美術の展示とプレゼンテーション	全校生徒、教員（感染症対策のため、保護者・一般の来場不可）
12 月	校内（N 棟 2 階廊下）・2 年生の美術と数学の学際的単元の生徒作品展示	全校生徒、保護者会に出席した保護者、教員
2 月予定 準備中	オンライン・10 月の DP 美術展示をウェブ上で公開	ウェブサイトを閲覧できる 保護者、一般、生徒、教員
2 月予定 準備中	校外（麻布子ども中高生プラザ）・ARTSCAPE 展	本校や参加他校の生徒、保護者、教員、一般の来場者
3 月予定 計画中	オンライン・台湾 IB 校とのオンライン交流展	両校の生徒、教員、保護者

２節　作品等の記録に関する生徒へのアプローチと振り返り

作品等の記録について、本校美術科では日頃から教師だけでなく生徒自身が制作過程や作品を画像等で記録していることが多い。生徒はそれらの記録をジャーナルに残したり、ポートフォリオに活用したりしている。特に DP 美術については、評価課題としてプロセスポートフォリオや展示記録のデジタルデータの提出が必要であるため、学習の過程や成果を適切な形で記録するスキルが必要である。「DP 美術 教師用参考資料」には「生徒作品の記録に関する一般的アドバイス」として「作品の写真や映像を撮る場合、以下の点が重要」であると記されている。(IBO,2017,p83-84)

・画像のピントがしっかり合っている
・写真の背景は無地、無彩色で、じゃまなものがない
・フラッシュの反射や、ガラスのような反射面からの邪魔な光を避ける
・台や展示パネルまたは台紙などではなく、対象がはっきりと映っている
・カラーバランスが正確である。写真撮影でもビデオ撮影でも、ホワイトバランスをチェックする
・「段階露出」を使って写真撮影されている。つまり、画像がそれぞれ理想的な露出値と、その露出値の上下の設定でそれぞれ 1 回ずつ、合計 3 回撮影されている。
最近のカメラのほとんどに、自動的にこれを行うオートブラケットの機能がついている。
最良の露出は、その 3 枚の画像から選ぶことができ、撮影後の編集または撮り直しの時間を削減することができる。

上記に言及されているような、画像のピント、カラーバランス、露出などについては、最近のスマートフォンやタブレット端末のカメラのアプリケーションでも調節機能がかなり充実しており、適切な撮影は生徒でも十分可能であると考えられる。しかし、上記のような点をすべて踏まえて撮影をしたり、必要に応じて適切な編集をしたりすることは、誰でも最初から感覚でできるようなことではなく、試行錯誤する経験が必要ではないかと考える。実際にこれまで、後期課程の生徒であっても、カメラを持った手の影が入ってしまったり、背景に関係ないものが写り込んでしまったり、

フラッシュでガラスが反射してしまったりして、編集や取り直しをうながしたことが幾度となくあり、より早い段階から記録撮影の学習経験を継続的にさせたいと感じるようになった。

そこで、前期過程の２年生を対象に、３学期の授業内で、生徒が１～２学期に制作した自分の作品（デザイン、絵）の写真を撮影する活動を行なった。撮影時間は約 20 分で、撮影機材はスマートフォンまたはタブレット端末を使用した。撮影時のポイントについては、前期課程の生徒が理解しやすいよう、以下のように伝えた。

・作品のまわりに関係ないものが入らないようにする
・作品の中に関係ない影が入らないようにする
・作品の中に光の反射が入らないようにする
・作品の形がゆがんで写らないようにする
・作品の本来の色合いが分かるよう、明るさなどに気をつける

また、撮影後に編集アプリケーションで背景を切り抜く等、必要な補正や加工はしてもよいことにした。なお、今回の記録撮影については、画像を今後オンライン展等に使用する可能性があるため、周囲の背景は基本的に入れない形で編集させている。図１、図２は、生徒が撮影・編集をした記録画像の例である。

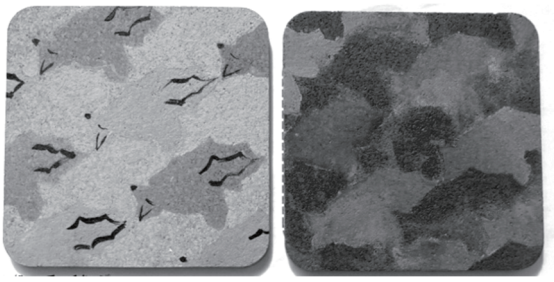

図１

図２

活動後に振り返りのアンケートを約 10 分間で行ない、授業の欠席者を除く 106 名が回答した。質問内容と結果は以下の図３～７のようになっている。

作品の記録に求められる撮影や編集の技能については、中学生でもポイントを理解すれば十分に習得できると考えられる。記録撮影の学習を通じて、作品の見え方や見せ方への関心が高まった様子も多く見られた。一方、過度な編集による作品改変の問題性については、より注意させていく必要がある。また、今回は平面作品が対象であったが、今後は多様な形態の作品の適切な記録に取り組む機会を設けたい。

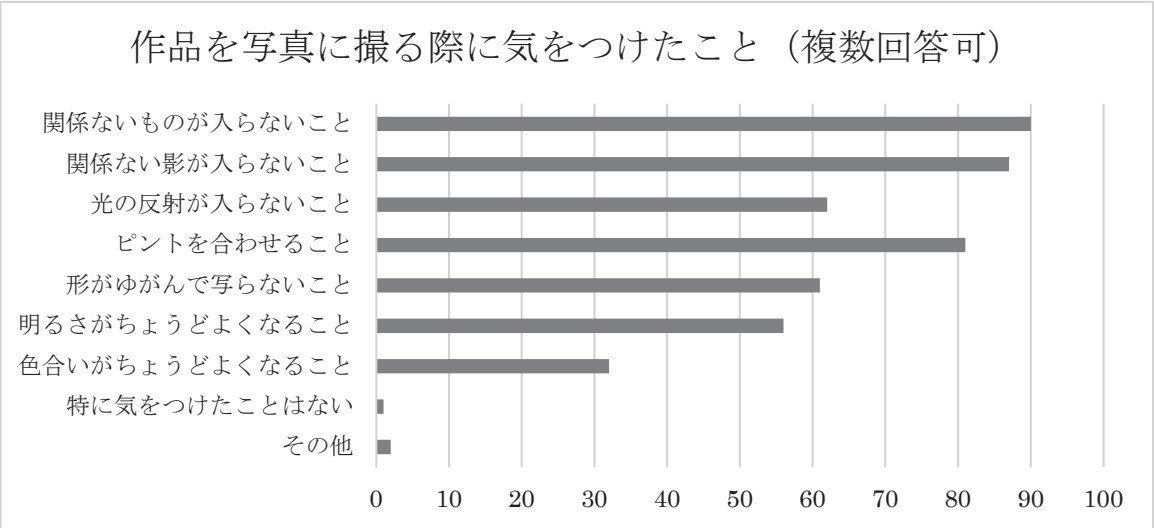
作品を写真に撮る際に気をつけたこと（複数回答可）
関係ないものが入らないこと
関係ない影が入らないこと
光の反射が入らないこと
ピントを合わせること
形がゆがんで写らないこと
明るさがちょうどよくなること
色合いがちょうどよくなること
特に気をつけたことはない
その他
0
10
20
30
40
50
60
70
80
90
100

図３

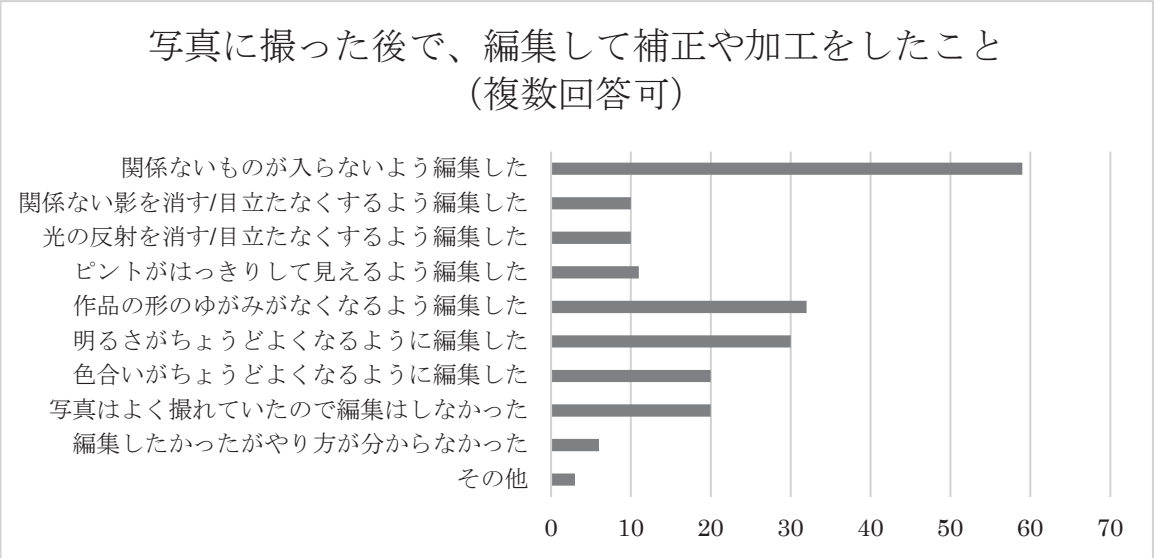
写真に撮った後で、編集して補正や加工をしたこと
（複数回答可）
関係ないものが入らないよう編集した
関係ない影を消す/目立たなくするよう編集した
光の反射を消す/目立たなくするよう編集した
ピントがはっきりして見えるよう編集した
作品の形のゆがみがなくなるよう編集した
明るさがちょうどよくなるように編集した
色合いがちょうどよくなるように編集した
写真はよく撮れていたので編集はしなかった
編集したかったがやり方が分からなかった
その他
0
10
20
30
40
50
60
70

図４

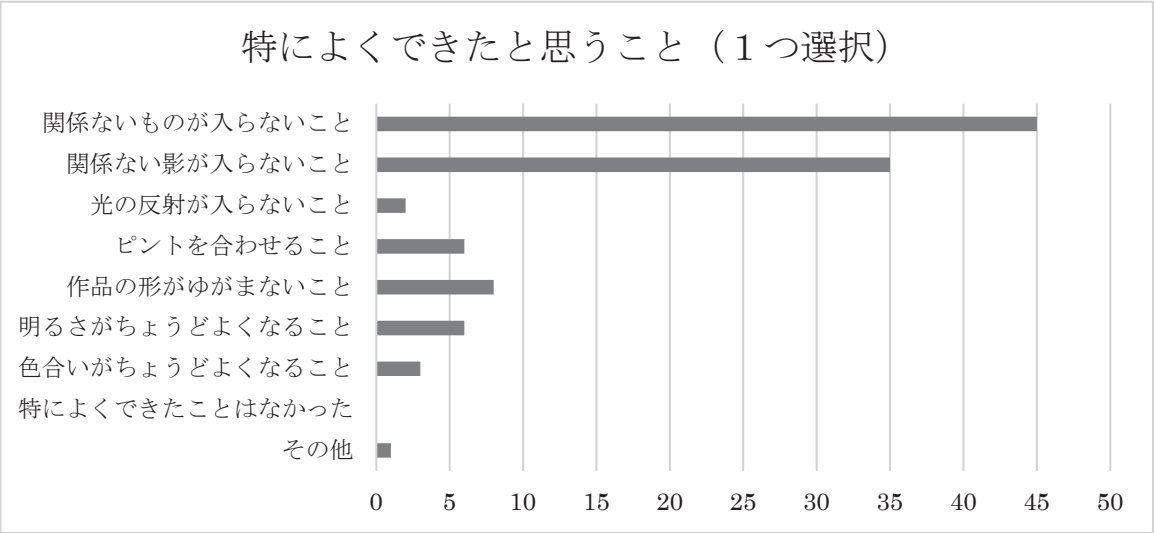
特によくできたと思うこと（１つ選択）
関係ないものが入らないこと
関係ない影が入らないこと
光の反射が入らないこと
ピントを合わせること
作品の形がゆがまないこと
明るさがちょうどよくなること
色合いがちょうどよくなること
特によくできたことはなかった
その他
0
5
10
15
20
25
30
35
40
45
50

図５

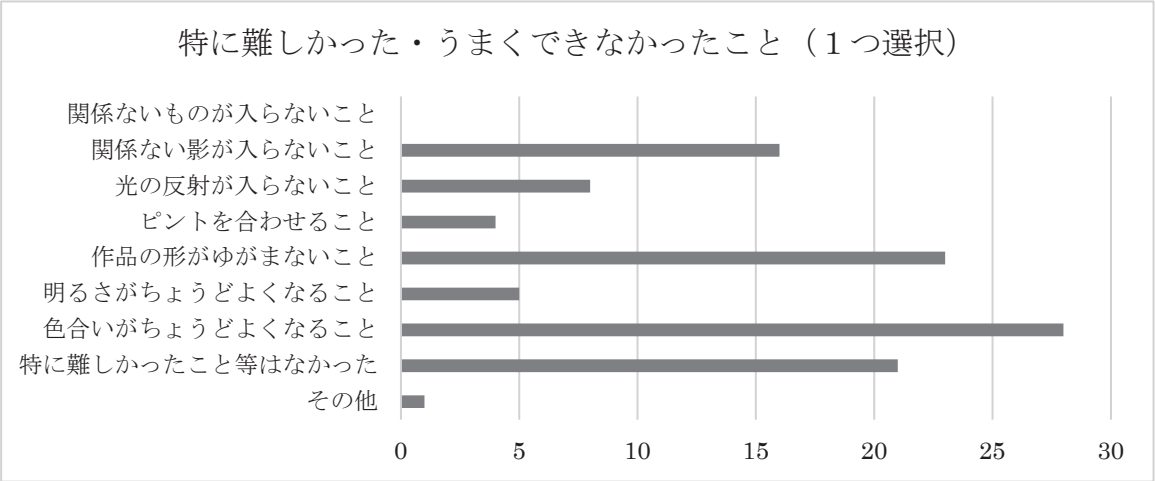

図６

気づいたことや今後に生かしたいこと（自由回答）

いい角度で撮るのと、条件がいい場所で撮ることを心がけたい
作品を見やすく、より綺麗に写せるようになりたいと思います。
普通に上から撮ろうとすると、どうしても影が写ってしまうので、体をなるべく引いて撮りました。ですが、ピントが合わなかったので、そこは次回から設定してから撮りたいです。
作品は実際に目で見た方が色などがしっかり分かりますが写真にとる事でその良さが薄れてしまうことがあったため、色合いなどがわかりやすいように編集し、実際にいた時と同じような感じまで近づけることが出来た。
実際の作品を写真内できるだけ同じ魅力を表現するように撮影するのが難しかった。
自分の作品を最大限魅力化させることを今後気をつけていきたい
iPhone のメモのスキャンでやると影が入らずに撮影できて、歪みも自動で直してくれるのでとても撮りやすかったです。
影について今回の撮影では美術室で行ったので影が出来にくかったと思いますが、その他の様々な場所で撮影したとしても光源の方向を意識し、影が出来ないように気をつけたいです
机に作品を置いて上から写真を撮ったので、作品が暗く写ってしまった。だから、次は作品を誰かに持ってもらって明るいところで撮ろうと思う。(美術館では絵画などは掛けて飾っているのでそれを参考にすれば良かったと思う)
影を写さないようにするために、作品を斜めにしたり、工夫してとると、作品の中で、長さが変わったり、歪んでしまう事があったため、今後、斜めにする時には、その歪みを工夫して利用し、より美しい作品となるような撮影をしたいです。 撮影次第で、作品の、目立つ部分が違うのだと気づいたので、今後は、自分が一番伝えたかった場所が 1 番目立つような、より作品を魅力的なものにする撮影をしたいです。
撮影をしてみて写真を取るときに押すボタンをおしたときにぶれてしまうことが多かったので、これからは気をつけたいです。
窓側の席のため太陽の光が入り込む事があったため、今度は撮影する場所をしっかり考えたいと思った。
自分はカメラを使わないので意外と進化していてびっくりしました。案外楽しかったです。
私には写真をとる才能があるみたいです。編集技術は磨くべきものだと思いました。
元々自分は描いた作品を写真で保存していたため、撮り方のコツは大体分かっていたものの、普段自分だけが見ると考えて撮るよりも、他の人も見ると考えて撮ると、いつも以上に気を使いながら撮った。
色合いはやっぱりレンズを通すと完全には一緒になることは難しいなと感じました。でも、思った以上にできたので良かったです。やっぱり普段から使い慣れているのが大きな理由だと思います。これからも適度に活用していきたいと思います。
自分の手が震えていると、写真がぶれてしまうので、それが起きないためにタイマーを使ってあまり写真がぶれないようにしました。その上、写真を編集する際、あまり編集したということが分からないように気をつけてました。編集をものすごく行ってしまうと、写真の見え方が不自然になってしまうからです。だから、明るさとかはあまり変えないよう努力しました。
撮影の仕方によって書いたものの見方が変わったりすることがあるということ
作品を撮る際に自分や周りの影が映らないようにすることを今後も心がけていきたいと思います。
いろんな角度で撮影したときにどう変わって見えるのか知りたいと思った
背景も工夫して、写真撮影をしてみたいです。
写真を上手く撮るために、加工方法や編集方法を活かしていきたい。
平面の作品では絵の具を使ったため、紙が丸くなってしまい、きれいな長方形にするのが大変だった。
ios のノートアプリを使って作品をスキャンすると、歪みをなくすことができる。
撮る場所によって、写り方が変わるので、作品の雰囲気に合わせて撮る場所を変えたい。
机や床に置くと陰が映ってしまったりぐにゃぐにゃになってしまったりするから美術館みたいに白い壁に綺麗にかけて光を横から当てて撮れたらいいなと思った。
今まで作品を撮ることはしたことがなかったが、撮ってみることで自分の作品の特徴を客観的に見ることができた。これから作って終わるのではなく自分で撮ってみる作業もしたい。
私は特に影を気にして撮影しました。編集では影を消すなどは難しいので撮るタイミングから映らないように努力しました。
今後写真を撮る機会というのは美術関係なく沢山あると思うので今回学んだことは大切だと思いました。今回は部屋の中で撮ったけれど、もし外で撮ったりするなら太陽の位置を気をつけないといけないなと思いました
撮影の際、ピントを合わせる時はしっかりと映るようにしたい箇所を何回か押し、調節すると、上手く合わせることができる。

図７

参考文献

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）美術編」2017
国際バカロレア機構「DP『美術』 教師用参考資料 2016 年第 1 回試験」2017

The Visual Arts Division Initiatives for SY2021

Abstract

We will report on what we mainly practiced in the initiatives conducted in the Visual Arts Division for SY2021.